

いっしゅうねん

からす新聞

第13号

おかげさまで(というよりも、我々の実力だが)、少なからぬ遅延はあったものの、からす新聞も無事一周年を迎えることができました。振り返ってみると、そんなことはどうでもよい。明日のことを考えよう。今後、我々はどこへ行くのか。

詫

発行が著しく遅れてしまいました。いよいよ廃刊か、と思つた方もいらつしやるかもしれませんが、そこではありません。仮編集長が虫歯で倒れていた、というのが原因です。関係各位には御心配をおかけし、刊行が遅れたことをここに深くお詫び申し上げます。

からす新聞は今後も続きます。引き続き、宜しくお願いいたします。

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

好きな食べ物は何か、と尋ねられることがある。カレーとスパゲティ、それにハンバーグ、こんなところだ。答えを聞くや否や、小学生はうんうんと首肯き、中学生は、がきみてえじやんと叫び、高校生は「へええ」というような、意外そうな顔をする。そんな反応が定番である。私のカレー好きは相当なもので、常日頃、生涯カレーしか食べられなくてもかまわないと豪語している。勿論、これはレトリックなのであるから、真偽のほどを問うてはいけない。それほどカレーが好きだということだ。あまり好きではないというカレーはあっても、食べられないというようなものはない私である。がしかし、そんな私でさえ、無理だと判断せざるをえないカレーが出現したのは昨夏のこと。かなり世間を賑わせているので誰もが知っているであろう、例の、和歌山のカレーである。様々なスパイスを効かせるのがカレーなのだろうけれど、それにしても、あれはちょっといただけない。

自室から階下に降りていくと、母が新聞を読みながら大笑いしていた。「一九六一年七月二日。どこかで聞いたことがあると思つたのよね」と言いつつ彼女が新聞を差し出した。息子の誕生日を覚えていた母親、珍しくないよな

今日の紙面

- 二面(オラ面)
- 松本と話そう。ピン、ボン、パン
- 三面(芸術面)
- レイズ・ギャラリー
- 四面(アメリカンレポート)
- ヤンヒポ
- みんなの詩
- 五面(語面)
- 島国根性
- 六面(教養)
- からすの通信

あ、などと思いつながら渡された新聞を眺めると、なるほど、確かにそこには私の誕生日の日が記されていた。新聞で話題にされるような事はしてかしていないはずだ、と訝しみながらよく見てみると、それは件のカレーの製作者と目されている女性の公判の記事なのであった。和歌山と東京、女性と男性という相違はあるにせよ、同じ日本に同じ日に生を受けながら、随分と大きな隔たりがそこにはある。

二〇歳の時に、事故で額に腫が入ってしまったことがある。そのせいで、少々頭の回転が遅くなってしまう、などという話はさておくとして、その入院先でも誕生日に纏るちよつとした出来事があった。

事故を起こしたのは高円寺駅から青梅街道に向う高南通りらしい。すぐに救急車が来て吉祥寺の手前の病院に運ばれたらしい。意識不明が二日半続いたらしい。それから大部屋に移されたからのことである。

どうにか上半身が起こせるようになった頃、部屋の対角にあるベッドから声が届いた。

「全太、しばらくぶりだね」
脳裡に疑問符が踊った。頭に腫が入っているのだから、幻聴くらい聞こえても不思議はないから、
(六面に続く)

からす新聞は学習塾カラーズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶しやない範囲で)。



松本と話そう。ピン、ポン、パン

遺書

ここに自分の遺書を記したい。

* 葬儀はやって頂いてもそうでなくとも構わない。スタイルも如何様でも構わない。〈ただ、オウム式は勘弁〉。もしやって頂いた場合に少しでも我が儘を言わせて頂けるなら、普段着で、ガヤガヤとはじけたものであって欲しい。それと順番はどうでもいいんで部屋に置いてるCDを片っ端からかけて欲しい。なんか気に入ったのがあれば、お持ち帰りになっても結構。とにかく、『とりあえず、また会おうね。』と心の中で言葉を交わせる場であれば、と思います。

* 墓は入っても入らなくてもいい。できれば、どこでもいいんで、土と海に還して欲しい。

* 残ったものは、だれが所有しても構わない。ただ、お金を貸して頂いて方優先で、好きに分配して頂ければと思います。大したものはないんですが、もし、一つに対して複数の方の手が挙がった場合は、じゃんけんをお願いします。あと、これも我が儘なんだけど、『遺品』なんていって、余計な価値を付けられるのはあまり好みません。要らなくなったらとっとと捨てる、くれる、それがいい。

* 万が一、自分の声を聞いたり、姿を見たりしなくなったときは、(まづこんな物好きはいないと思うが)就寝前に、『やあ、元気かい。』なんて言っておいたら、夢の中でお応えしましょう。

血、肉を与えてくれた、父ちゃん、母ちゃん、地球、宇宙に感謝。

1999.5/27. 松本巖

とまあ、遺書である。

実は、癌に網されて、余命幾許もなく、それで自殺を真剣に考えたり、あるいは、どうせそれならと、欽勇兵にでもなってコソボにでも赴いてNATO軍とユゴ軍に向かって行ってやろうと目論んでる次第なのである。わけないだろ。

とはいえ、最近、やたらとまるで幼稚園児の頃のように、危うい思春期の頃のように、『死』について想う機会が増えた。どうしたことなんだろう、って自問してみるが、明確な答えは帰ってこない。精神分析でも受けてみるか。

太陽の光が強くなればなるほど、影の色は濃くなる。つまり、物事のあらわれには、その裏でそれと同じだけのエネルギーが逆の方向に作用している。

たとえば、誰が見ても明らかに『生きる』ためだけに、まさに『生きていく』ような時期である幼児は、死に関する言葉を無意識のうちに発してばかりいる。

「ねえ、ねえ、このお人形さん、首とったら死んじゃうの?」とか、「死んだらどこ行くの?」とか、「あっ、ウソついた。地獄に落ちるんだ。」とか。あと、極端にお化けとかの話をしたがるのも同じようなことなんだろう。

ということは、現在の自分は、奴らのように無意識のなかで、『生』への志向が高まっているのだろうか。

もちろん、それは意識されない。が、自らの、現在の行動という、それによってもたらされる一つの現象をみってみると認識されるのではないが。

最近、よく動く。最近、よく動く。最近、よく食う。これが、とっさに思い浮かぶ客観的現象である。なるほど、『生』と直結したものばかりである。それに引越しもしたし、それ以来、(この5ヶ月間)部屋がやたらと片付いていてきれいだったりする。こんなことは生まれて初めてだ。これはどう捉えよう。

あと、意識的にであれ、自らの死を考えてみるのも面白い。そこから、今、自分がどう生きているのか見事に浮き彫りになるからだ。

自分が分からなくなって、混乱してしまって、死んでしまいたいなんて思ってる人。まず、遺書書いてみようよ。

中國料理

コウ テン エン
廣天園
 コウ コウ エン
裕香園

好吃好香

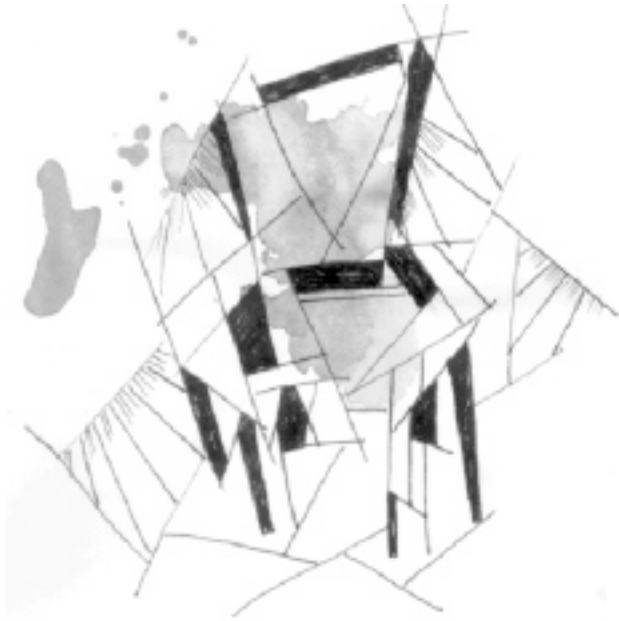


Ken-ichi Shinozaki, architect

5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,
 Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;
 e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

Rei's Gallerly



いすのある空間

りんと自分の関係



手

ヤンヒポのハッハッハ

この所、激動の時を過ごしているヤンヒポだが、そんなネタを書く間違いなく連載中止になるので自重している今日この頃である。そんな中で選んだ今回のネタは夜蝶の妖艶な欲望を浮き彫りにしてみる事に。ただ、ヤンヒポの技量がそこまでかどうかは今後の展開次第ということになるので結果までは保証できないのであしからず。

さて、このところ身内に不幸が続いて起り何かと忙しない身辺だったが、その分身軽になっているのも事実である。人間身軽になると、物言いも軽くなるもので自然と会話も軽くなる。そういう状況の中、偶然にも夜の町へ繰り出す機会が増えていった。夜の町と一口に言っても色々あるが、自分のホームグラウンドはやはり六本木だろう。子供の頃、繁華街という東洋一の歓楽街である新宿歌舞伎町だったが二十歳を過ぎる頃から港区区界隈へ移動していった。余談だが、いずれ歌舞伎町の町並みもヤンヒポの視点で斬ってみたいと思うのである。

大体10年前の六本木というのはご存知の方々も多いと思うが、いわゆる業界人(この場合テレビ、マスコミ、広告業)関係が好んでたむろしていた。逆に、そういう連中が主になって周りからみていると別世界のようだった。きっかけは忘れたが、自分も出入りするようになるほど、色々なタレントや有名人を見かけたような気がする。もちろん今でも見かける事はあるが、以前程ではないように思う。それだけ六本木界隈が変わってきているのだろう。では実際何が変わったかということ、10代の男女が溢れかえっているのである。10代が出入りするようになる訳も色々あると思うが、一番の要因は現地での物価が下がった為だと思う。10年前、六本木で遊ぶには金がかかったのだ。10年経つと自分のレートも上がるのだが、それ以上に六本木の単価が下がっているのだ。話に聞くとまだまだ座ってだけで10万という銀座並の店もあるようだが極く一部であり、一晚遊んでも5万を切るレベルで十分遊べるようになった。その要因については本題と外れるので今回は言及しないが、そういう物と思っていたらいい。

単価が下がるとおのずと人は集まり安くなる。当然、仕事をしたい人間にとっても働き安くなる。夜蝶にしても敷居が下がっているので入りやすい。最近のトレンドは現役高校生なのだ。多分法律上18歳未満は違法だと思うのだが、夜の町にはそんなもの通用しない。資金源の大人達もその方が好ましいようで需要と供給のバランスが取れているのだ。しかし残念な事にサービス業としての質は下がっているのは事実だろう。どうしたって子供には子供の常識しか有りえないのだ。またそれも良きかな、ではあるのだが、、、。そういう娘達には、以前のような水商売で働く負い目というような風潮はまるでない。あたかもコンビニでバイトをする感覚だ。最近よく話題になる「援交」なんかより数段マシなのだ。しかもそういう連中は以外と保守的だったりする。イヤラシイオヤジの口車には一切乗らなかつたりするのだ。そういう意味では子供ながらにプロなのだ。

そんな中にヤンヒポが出かけるとなかなか楽しいのだ。ヤンヒポは何を隠そう今年の7月で32歳になる。しかし、ド金髪にピアス、指輪にブレスレットなんていういでたちも手伝ってか20代半ばから後半にしか見られない。もちろん聞かれれば歳をごまかしたりはしないし、ごまかすよりは数段効果的なのだ。さらに、L.A.在住なんて話をした日には、そりゃあも、、、、。しかし、日本人は政治家に限らず多かれ少なかれ、アメリカ、特にカリフォルニア、ロスアンジェルスというのは聞こえが良いようだ。因に家はハリウッドだし。夜蝶にとってはちょっと海外旅行なんてのは朝飯前なので、きっかけさえあれば直ぐに出かけてくる。連中は主にリゾートアイランドが主なので本土は未開の地らしい。ワイハ、グアム、サイパン辺りはいかにオヤジ的な感覚なのだ。さらにL.A.在住の友人の所へ遊びに行くといのは周りに鼻が高いらしい。さらに「ビバリーヒルズ高校白書、青春白書」等々のテレビ番組も手伝って正にL.A.は憧れの地のようなのだ。ここから先の事はご想像に御任せするが、一つだけこれを読んだ諸兄に一言、アメリカって所は日本からの憧れに対して確かに、十分答えてくれる所でもあるが、そうではない部分も多い。問題なのは、そうでない部分をいかに理解しておくかだろう。相手はアメリカ人だけでは無いのだ。ハッハッハ。

バックライト(逆光線)

佐藤 良示



03-3220-4679
http://go-zeta.com/

雨の日に、貴女からの手紙
雨粒が文字に染み込んで
萎れた活花のような
泥で描いた絵巻のような
なんて色褪せた宛名書き・・・
封を開け、取り出す便箋は、
野に咲く花に舞う蝶のように
小泉の水面に映る春の風のように
だけど滲んだインクの文字には、
貴女の姿が其処にある。
薄暗い部屋に輝く文明の逆光線
向側の壁に写る貴女からの、メッセージ
色鮮やかな画面に映る
尖った文字に、擦り切れた言葉
なれど貴女の姿は、視えない、浮かばない。
実用主義者、功利主義者の野望が、
靈魂を奪い去ろうと襲ってくる。
私は、翼を掴もうともがく。
滔々と流れる時代のなかで
時空の訪問者が、私に感言する。
迎合する事なく、歩きなさい・・・と！

シャーロックホームズの陰気な楽しみ

若尾喜重

人間はつねに謎を解きたいのである
又人間は謎を解かれないのである
かつてQは謎の男であったが
幾人ものシャーロックホームズによって
身ぐるみ剥がされ 裸でほうり出されてしまった
教養がばれると みんな冷淡になり
かつ 安堵した 履歴書の中に謎が
なくなつたからである
シャーロックホームズ達は 難解な事件を
解決したがるので 神秘的な女性を好んだ
女性に対して盛んに レトリカルな食事を
すすめた そこで値踏みが始まるのである
頭の天辺から足の爪先まで解剖され
正札の何割引きで 値札が付けられる
寡黙な人は ロンドンの霧のように謎めい
て過大評価される
特にそれが美人だと シャーロックホーム
ズ達は 俄然元氣になり ナイフとホーク
をカチカチさせながら 舌舐めずりしている
かくしてシャーロックホームズ達は
食欲に人間を食べては排泄し、ときとして
便秘になることもあるが ポケットには
いつもタケダ漢方便秘薬を忍ばしているの
で 俗物という胃拡張で澄ましている

パワフル スタッフ

現場作業員派遣いたします

株式会社コナイテッドホームズ
160-0004 東京都新宿区四谷2-11
TEL 03 (3359) 3101
FAX 03 (3359) 3102
携帯 090 (4015) 6830
ゼネラルマネージャー 鳥瀬悦拓

島国根性

原点シミュレーションその七(フランス～イギリス編)

世界中どこに行っても共通の、コミュニケーションの原点と言える表現をしつこく探索中ですが、今回彼は海を越えてイギリスへの入国を目指します。外国に入国するときの手続きなどについて学んでみましょう。(望月)

国への出入りにはチェックがある。特に入国に関しては、各国の当局は神経を尖らせる。要するに、招かれざる客には来て欲しくないのである。犯罪者が嫌われるのは当たり前だが、いわゆる不法就労者なんてのも好ましくない。カネを落としていってくれる観光客なら大歓迎だが、そのふりをして働きに来る人間もたくさんいるのである。ただでさえ我が国は失業者で溢れ返ってるんだから、さあ、帰ってくれ、というわけである。ところが故国をあとに一大決心でやって来る不法就労者たちだから、給料が安くたってどんな仕事でも選ばずにやる。安く使えるとなれば、使う側も違法と判っていないながらもつつい雇ってしまう。実際問題としてその国の経済に貢献していることも否定できない。そんなわけだから、なかなかなくならない不法就労。日本を含めたいわゆる先進国が抱える共通の悩みである。

そこでビザというものがある。入国許可証である。観光・学生・就労とあるが、もちろん就労ビザはそう簡単にはもらえない。まずもって自らの身分の保証や雇い主の証明が必要。公認で働けるお墨付きをもらおうというのだから当たり前といえれば当たり前だが、そんなんだつたらめんどくさいから取り敢えず観光ってことで行っちゃえ、と考える人たちが多いのもまたうなづける。駄目なら駄目で送還されるまでだ、ということなのだろう。実際観光ビザの取得はたやすい。繰り返すが、観光だったらいらっしやい、なのである。日本人だったら欧米各国を旅行するのに観光ビザは免除、つまりいらない。お金持ちの日本人を拒む国などあるはずもないのである。

僕ですか？僕は今回働くつもりはないので、何のビザも持ってません。西欧の国はどこも免除だし。まあ、就労ビザ取ろうとしても無理だろうけど。

そんなわけで日本人は観光客を名乗る限りどこへ行ってもフリーパス。特に大陸にあって隣国と陸続きになっている国々ではチェックなど形だけといった感じ。列車での移動中国境は何度も越えたけれど、国境の駅で係官が乗り込んできて軽くスタンプをポン、といった具合。以前空路で入ったこともあるけれど、フランスでもドイツでも「観光で来た」と言えばそのまま通してくれた。もちろん日本人だから、ということも付け加えておかなければならない。けれども、とにかく万里の長城みたいに国境線に長々とバリケードを築いてお呼びでない客人は水際で阻止、なんてあまり現実的ではないのである。しょうがないよ人は行き来するものだ、と大らかに考えている、あるいは考えるしかないとき直直しているようにも思える。それでもかつて冷戦末期の東ベルリンから西に抜けようとしたときには、別室に連れてかれてカバンも全部開けられたっけ。あんなときは日本人ってのがかえってあだになってたかな。俺が西側のスパイにでも見えたんだらうかな。そういえばあの頃は、現実に「壁」はあったし東西ドイツ国境には有刺鉄線だったんだよなあ。

フランスからイギリスへはユーロトンネルもあるけれど、のんびり船で渡ることにした。ドーヴァーの砦に着くと、早速入国審査へ。随分と見上げるような高いところにおねえちゃんが座っている。にこにこしてるぞ。

What are you going to do in this country?

(この国で何をするつもりですか?)

I'm going to see this country.

(この国を見てやるつもりだよ)

Sightseeing(観光です)というべきである。学生とか就業とかのビザの持ち主ならともかく、そんな汚いジーンズはいててただでさえ「あれ?こいつ日本人のくせして貧乏臭いわね」なんて疑われかねないんだから、余計なことを言うべきでない。おねえちゃんを見よ。すでに笑顔は消えている。

Welcome to Great Britain.Where are you going to stay?

(イギリスへようこそ。どこに滞在するつもりですか?)

Anywhere.

(どこにでも)

London(ロンドンです)とか適当な場所を申告すべきである。ここは本当のこととはいえ思い付きをそのまま言葉にしていいような場所ではない。おねえちゃんを見よ。あごが少し上がった。見下す体勢だ。

How long are you going to stay here?

(ここにはどのくらい滞在するつもりなの?)

Six month.

(6カ月)

Two weeks(2週間です)とかそのくらいが相場である。適当でいいのである。確かにイギリスの場合日本人が観光で滞在できる期間は最長6カ月だが、半年観光するんだ、と云ったって信じてもらえるはずはない。おねえちゃんを見よ。眉間にしわが寄っている。彼女の目は不法就労目的の外国人を見ている。

How much money do you have?

(お金はいくら持ってんの?)

Here you are.

(ここにあるぜ)

クレジットカードだけ出しても駄目である。銀行発行の預金証書でもあれば話は別だが、それに代って見せ金ではないとの証明にはならない。おねえちゃんを見よ。脇で待機中のおにいさんに目で合図している。別室行きだ。

ああ災難だった。何だか良く判ない英語でこっぴり絞られた挙げ句に

One month.

(一月ね)

だだよ。ちっ。けちけちしてんなあ、イギリス。

入れてくれただけで良しとすべきである。

それにしても島国根性丸出しである。下手に水際で阻止できてしまったりするので閉鎖的になるのだろうか。大陸のような大らかさが少しは欲しいものだ。多分、成田あたりでも似たような光景が日夜繰り返されているのだろう。

中山歯科クリニック

診療時間.....AM9:00 ~ PM9:00

水曜・土曜.....AM9:00 ~ PM6:00

休診.....日・祭日

03-3381-1109

ハンカチ不要、ベニーニもの かくれみの通信

素晴らしい音楽や映画、書物に出会ったとき、その感動を人に伝えたいという衝動に駆られることが、私にはよくある。それだけでは満足せず、同じ作品を観て、聞いて、或いは読んで欲しいと、営業マン紛いのことまでしてしまう(誤解され、逆効果なことも多々ある)。

イタリア映画「ライフ・イズ・ビューティフル」は徐々に人に勧めたくなった一本だ。監督はロベルト・ベニーニ(脚本・主演)。映画好きなら知っている人も多いと思うが、イタリアの喜劇役者で、一般的には、奇人、奇才といわれる部類の人物である。ベニーニファン(私もその内の一人)ならずとも、映画館に足を運んで観て欲しい、大推薦の映画だ。これから観ようと思っている人もいられるかもしれないので、内容については多くを語るつもりはないが、ナチスドイツ+ユダヤ=お涙頂戴物とはせず、笑ってしまうことで別の視点から返しているあたり、さすがベニーニらしいし、空想力というこの映画の主題も、大いに私の気に入るところである。

しかし、この作品が世界各国で多くの賞を受けることになった(受賞したから良い作品と言っているのではない)最大の理由は、ベニーニ扮する主人公と、その妻、息子からなる、一家族の在り方だろう。ひよんなことから知り合った男女が結婚し、やがて子どもを儲け、生死を共にしていく三人の生き様(言うまでもなく演技は素晴らしい)、ドイツ占領下のイタリアに、ユダヤ人として存在することは、決して良い運命だと言えない。にもかかわらず、大切な物を見失わないで生きる家族をこの映画は描いている。ユダヤ人だから不幸なのではなく、戦争に勝ったから勝者なのではなく、勝者がいるとすれば、この家族だと、ベニーニは言っている。人生は素晴らしい、ではなく、素晴らしくするもしないも、自分しだいということだろう。

最後になるが、私が一番印象に残っているのは、三人の笑顔である。一家の主である父親の、悲しみを押し殺した道化の笑顔、母親の聖母のような笑顔、子供の無邪気な笑顔、特に、ニコレッタ・プラスキ(母親役)の微笑みが、私の眼に焼きついて離れない。

(からす・美濃共同=新井)

次号予告

アルカイク・スマイルとの再会

ニコレッタ・プラスキの微笑みにすっかり参ってしまった新井特派員は、同様に素晴らしい微笑みの持ち主に再会すべく、奈良へ飛んだ。

All We Need Is Love

(一面のつづき)

い。ところが、それは幻聴ではないところが不思議だったわけだ。小中学校時代の同級生が、同じように事故で入院していたのである。かつては私と同じ団地に住んでいたが、当時は多摩の方に引っ越していた彼、事故を起こしたのは多摩霊園のそばだったようだ。孰れにせよ、救急車で運ばれた先のベッドの上で同級生と御対面とは、なかなか洒落た偶然だろう。だが、それだけではない。驚く事なかれ、彼の誕生日も一九六一年七月二日だったのである。これを知ったときには、さすがに生年月日に依存する占いには、何らかの根拠があるのかもしれない、という気にもなった。つまり、生年月日によって、われわれは運命づけられているのか、と。

運命というのは生年月日に影響されるのだろうか。一九六一年七月二日に生まれた三人

を見る限り、イエスともノーとも言えそうな感じだ。和歌山の女性が二〇歳の頃、事故で入院していたという事実でもあれば、かなりの関連性があるように思えてくるだろう。もっとも、彼女は保険金詐欺の常習者のようなので、本当にはない事故であっても入院したりしている可能性があるのだからうけれど...

運命は決まっている、そういう運命だったのさ、人は、時としてそんなふうを考える。果たして、予め決められた運命というものはあるのだろうか。運命というものに関して、古来、哲学者や宗教家が様々な論を打ち出しているけれど、決定打というようなものはないよう

だ。実のところ、私の中でも、運命というイメージは常に揺れ動いている。私がかこにいて君たちと出会ったのも、何かの縁だ、という感覚。その一方で、人生は自分で切り拓いていくもの

だ、という意識もある。

例えば、私が何か大きなへまをしてかしてしまったりしたら、それは運命さ、しかたがないよ、と片づけられてもかまわないのだろうか。仮に、私が途轍もなく美しいメロディーを紡ぎ出し、多くの人を感動させたとしても、それも、運命だと片づけられてしまうのだろうか。

人それぞれに感じ方は異なるのだからうけれど、私は、運命があるにせよ、ないにせよ、自分がしたことの結果は、全て自分で引き受けたと思う。失敗も成功も、どうでもよいことも何もかも。

さて、あなたはどうかだろう。何もかも運命の手に委ねてしまおうのか、それとも、自らの掌に握り締めるのか。こんなことを尋ねると、そういうところで白黒をはっきりさせないのが日本式なんだよ、という声も聞こえてきそうではある。なるほど、そうかもしれない。

(全六)

廣天園
当社(4F)
中山歯科 2F
とみん銀行
おうめかいどう
新中野駅
杉山公園

来社見学を御希望の方は左記のところへ。丸ノ内線新中野駅徒歩〇分

1クラス4人までの少人数制学習塾

リアス

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
中野坂上駅
リアス

編集後記
からす新聞第十三号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は六月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。